

# 菱の実



菱実会（佐賀大学理工学部同窓会）会報 第26号

発行日 2024年7月1日

発行 菱実会

佐賀市本庄町1 佐賀大学内  
TEL/FAX 0952-23-7131  
E-mail ryoujitsukai@sudream.sakura.ne.jp  
ホームページ <https://www.sudream.org/ryoujitsukai/>

編集代表者 小玉 純士

## 目次

○会長就任の挨拶 島 公二武……1	○私たちががんばっています (vol.10)	
○【トピックス1】	・ロボットはやめた／人間の腕を作れ 藤本 勝……12	
空から眺めた佐賀大学本庄キャンパス ……2	・ポンプで佐賀の安全・安心を 田崎 茂樹……12	
○学部長のあいさつ 佐藤 和也……3	・学んだ技術を未来に活かし夢を実現する 田口 英信……13	
○第9回佐賀大学同窓会長賞授与について ……4	・STEPsで踏み出す海外への一歩 山下 彰太……13	
○第4回理工学部同窓会長賞について ……4	○菱実会役員の自己紹介(vol.6)	
○第20回理工学部長賞の表彰 ……5	・菱実会と共に10年 島 公二武……14	
○2023年度(第7回)菱実会・理工学部広報賞 ……5	・学生理事として 高津 汰輝……14	
○2023(令和5)年度佐賀大学の学部卒業生と研究科修了生について ……6	○【トピックス3】	
○2024(令和6)年度佐賀大学入学式について ……6	佐大漕艇部「むつごろう活動記録誌」の出版 山口 武夫……15	
○理工学部教員一覧(関係センター含む) ……7	○第12回理工学部と菱実会との意見交換会を開催 山口 智啓……16	
○【トピックス2】	○2023年菱実会総会・クラス代表会議・記念講演・懇親会の報告 山口 智啓……16	
産学交流プラザ～大学と地域の連携拠点～ 高津 汰輝……7	○支部会・地区会の報告	
○理工学部(理工学研究科)の特徴ある研究の事例紹介(第5回)	・神埼地区会 田中 稲穂……17	
・階数2のp進ガロア表現の岩澤理論の研究 中村 健太郎……8	・佐大懇親会 穂屋下 茂……17	
・身近な新材料-鉛筆と化学と新材料 坂口 幸一……8	・熊本支部会 山口 智啓……18	
・ミスフィット層状構造を活用した2次元超伝導の研究 真木 一……9	・筑後支部会 小玉 純士……18	
・金属材料のメソスケールモデリングとシミュレーション	・東海支部会(不知火会) 山口 智啓……19	
只野 裕一……9	・大分県支部会(豊後はがくれの会) 山口 智啓……19	
・汎用人工知能とロボット応用 伊藤 秀昭……10	○菱実会の動き(2023年度 2023.4-2024.3) ……20	
・さがの水とミカンに向き合う都市 日野 剛徳……10	○お知らせ	
○2023年度理工学部キャリアデザインセミナー ……11	・菱実会発足25周年記念事業のご案内 ……20	
・数理・情報部門(情報)のキャリアデザインセミナーに参加して 山中 輝樹……11	・佐賀大学同窓会からの離脱の報告 ……20	

## 会長就任の挨拶

菱実会会長 島 公二武  
(機械・S46入)



この度、13期の菱実会会長を務めることになりました島 公二武(しまくにたけ)でございます。昭和46年に佐賀大学理工学部に入學して、半世紀が過ぎました。私は理工学部の創設期から今日まで佐賀大学の発展を見守ってきました。

理工学部は、1966年の文理学部改組に伴い、経済学部とともに設置されました。菱実会(佐賀大学理工学部同窓会)は、1999年8月に楠葉同窓会から分離独立して発足しましたので、2024年8月に25周年を迎えます。菱実会では理工学部入学時に正会員となりますので、2024(令和6)年4月現在の菱実会会員は約28,200名となり、佐賀大学全同窓会の3分の1を占めています。

私も同窓会の役員をさせていただいて今年で10年目を迎えました。2年目には支部強化部長になり、県内11地区会の役員会を開催し地区会の充実を行いました。また、巻頭言と不知火寮歌「南に遠く」の熱血の舞と学生歌「楠の葉」を応援団風に振り付け歌う練習を行い、寮歌祭や支部会で披露して会を盛り上げ、卒業祝賀会にも学生歌「楠の葉」でエールを贈り、卒業生や先生方に同窓会をアピールしてきました。その後、佐賀大学同窓会の理事長となり、多くの経験をさせていただきました。

佐賀大学も宮崎学長から、はじめての佐賀大学出身の兒玉学長に引き継がれ、色々の改革がなされています。菱実会でも同窓生ネットワークを強化するために、学生表彰制度を充実させ、さらに学部生部会及び卒業生部会を発足して、少しでも同窓生同士の繋がりを持つ機会を増やしていく企画も進めています。

今年は、菱実会発足25周年ということで、記念式典・祝賀会や記念誌発行などの記念事業を行います。会員の皆様には記念誌への執筆や式典への参加をしていただき、菱実会への更なるご協力のほどよろしくお願い致します。

## 空から眺めた佐賀大学本庄キャンパス

これまで鳥瞰写真を撮る機会はありませんでしたが、高精細カメラを備えたドローンの出現により誰でも撮影可能になりました。菱実会発足25周年を迎えるにあたり、理工学部を中心に本庄キャンパスの姿を空から撮影して、卒業生や入学希望者に今の佐賀大学本庄キャンパスを伝えることにしました。空撮は学生ベンチャー企業「Tecテック」の福嶋通明氏にお願いしました。ドローンで大学キャンパスを空撮するためには、国土交通省の飛行許可証「無人航空機の飛行に係る許可・承諾書」、学内管理者への飛行計画申請が必要です。

写真右下のQRコードより、「空から眺めた理工学部」「空から眺めた本庄キャンパス」の動画をご覧ください。今の佐賀大学及び周辺の様子を観ながら懐かしんでいただければ幸いです。



理工学部の鳥瞰写真。遠くに天山を望む。中央の高層ビルは理工学部8・9号館です



本庄キャンパスの鳥瞰写真。遠くに有明海沿岸を臨む。田畑には二条大麦が金色に輝きはじめています

## 学部長のあいさつ

理工学部長 佐藤 和也 教授



2023年10月より理工学部長に就任いたしました佐藤でございます。理工学部同窓会の皆様には日頃より理工学部の様々な活動に対しまして多大なるご支援をいただいておりますこと、誠に感謝しております。心より御礼申し上げます。

コロナ禍がようやく収束を迎え、大学もほぼコロナ禍前と同様な活動を行えるようになりました。理工学部は2019年度の改組以降、理工学部1学科12コース、学生定員480名で運営してまいりましたが、2023年度にデータサイエンスコースの設置、さらに2023年に令和5年度大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）に選定され、2024年度より学生定員が510名に増員されました。学生の増員分は情報系3コース（知能情報システム工学、情報ネットワーク工学、データサイエンス）に振り分けられます。この定員増は2024年度一般入試から適用されましたが、前・後期日程入試の倍率はここ数年と大きく変わらず、多くの受験生から佐賀大学を選んでいただいている証となりました。九州地区における18歳人口の減少は比較的穏やかですが、受験生確保は喫緊の課題ですので、これからも理工学部の魅力発信に努めてまいります。学生の就職状況においても、就職を希望する学生の就職率は100%を達成しており、卒業後も様々な企業・自治体などで活躍している様子が伝わっております。

研究面では2019年度より佐賀県と進めております「再生可能エネルギー等イノベーション共創プラットフォーム（CIREn）」の活動が評価され、2023年度より4年の継続が認められました。現在は15研究分科会が活動を行っており、県内企業、自治体と理工学部教員との共同研究・開発がなされています。また電気電子部門 嘉数 誠 教授らのグループによるダイヤモンド半導体の実用化に向けた研究がさらに進展しているほか、多くの教員が大型の共同研究、受託研究を獲得して研究が進展しております。2027年度末までに30名近い教員の方々がご定年を迎えられますが、現状の研究の勢いが途絶えないよう、さらに学生への教育の質が低下することのないように、新しい教員を迎えるために鋭意奔走中です。

理工学部は、関連するすべての皆様から頼りにされる存在となれることを目指しております。学生への教育など様々な活動、教員の教育・研究活動において理工学部同窓会からのご支援は欠かせないものとなっております。今後とも引き続きご支援並びにご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 第9回佐賀大学同窓会長賞授与について

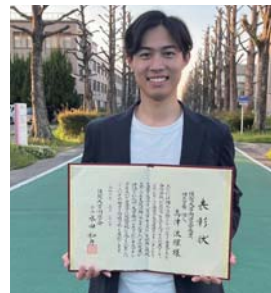
佐賀大学同窓会では、社会活動、教育、研究等で顕著な社会貢献があったと認められる個人又は団体に「佐賀大学同窓会長賞」を授与しています。

2023年度は6つの学部から推薦がありました。推薦があった学部からの推薦書を佐賀大学同窓会役員会で審査した結果、下記の方々に佐賀大学同窓会長賞を授与することになりました。受賞者の皆様おめでとうございます。

2024（令和6）年3月22日の佐賀大学学位記授与式が佐賀市文化会館で執り行われました。

6つの学部からの受賞者は次の通り。

教育学部	団体「わーるどりんぐ」	代表	大塚	雅仁	氏
芸術地域デザイン学部	個人		遠藤	梨夏	氏
経済学部	個人		山下	万希	氏
医学部	団体「ほびろほびろ」	代表	平川	悠月	氏
理工学部	個人		高津	汰耀	氏
農学部	団体「食農基礎技術マスター」	代表	石埼	美里	氏



### 【理工学部の高津 汰耀 氏の推薦理由】

課外活動としてベンチャー企業である「sunapp」を立ち上げ、代表に就任し、バスケットボールの練習や大会運営のマネージメントを支援するアプリ「スコアキャスト」を開発し、地域スポーツの支援活動に尽力しました。その成果が評価され、九州・大学発ビジネスプランコンテストで受賞し、地域貢献に尽くしました。

なお、菱実会（佐賀大学理工学部同窓会）は2023年度限りで佐賀大学同窓会から離脱しましたので、理工学部の学生が佐賀大学同窓会長賞を受賞するのはこれが最後になります。

## 第4回理工学部同窓会長賞について

理工学部同窓会長賞は、成績（GPA：Grade Point Average）の他、学術研究活動、課外活動、社会活動等において総合的に優秀であると認められた学生（4年生）を表彰する制度です。第4回目となる2023年度からは成績のみに偏らない幅広い推薦になるように、4年間のGPA、学術研究活動、課外活動、社会活動、及び同窓会とのコミュニケーションなどのポイント例を示していただくようにしました。2023年度は理工学部長に各部門から13名の候補者を推薦していただきました。残念ながら1名は辞退されました。

受賞者の氏名とクラス名（コース名・入学年度）は次の通りです（敬称略）。

古賀 創臣（知能・R2入）	岸本 蒼唯（知能・R2入）	石津 七海（知能・R2入）
石川 聖真（生化・R2入）	濱崎 巧海（生化・R2入）	大嶋 悠人（物理・R2入）
中本 万智（物理・R2入）	田中 翔大（機械・R2入）	峰 遼大（メカ・R2入）
楢崎 蓮（電気・R2入）	長野いづみ（都市・R2入）	齋藤沙耶花（建築・R2入）

理工学部同窓会長賞の表彰式は、今回から菱実会総会・懇親会に併せて開催することになりました。2024年度の菱実会総会・懇親会は菱実会発足25周年記念式典・祝賀会と併せて、2024年9月7日に佐嘉神社記念館で開催することになっております。ですから、今回は菱実会発足25周年記念式典・祝賀会の会場で菱実会会長から1名ずつ表彰状と副賞が手渡される大変おめでたい表彰式になります。また、受賞者には菱実会発足25周年記念事業の一環として発刊される「菱実会発足25周年記念誌」に投稿をお願いしております。

## 第20回理工学部長賞の表彰

2024（令和6）年4月2日（火）16時から、理工学部6号館2階の多目的セミナー室において、理工学部長賞の表彰式が開催されました。2022年度において、2年次及び3年次の学生で成績が優秀であると認められた24名の学生、各学年各コース1名ずつが表彰されました。表彰式において、菱実会（理工学部同窓会）からは副賞として図書カードを贈りました。表彰式のあとの懇談会は、出席者全員の簡単な自己紹介と最近気になることの紹介の後、山下彰太代表によるSTEPs（理工学部学生国際交流活動組織）（<https://www5.hp-ez.com/hp/susteps/home>）の紹介がありました。STEPsは、佐賀大学理工学部長賞を授与された成績優秀者で構成される学部公認の学生による国際交流活動組織です。

### 第20回理工学部長賞受賞者（敬称略）

コース名	新4年（21）	新3年（22）
数理サイエンスコース	馬場 康太	岸本 康平
知能情報システム工学コース	伊藤 綾香	野田 大希
情報ネットワーク工学コース	山元 良太	木下 広大
生命化学コース	黒岩 佐月	天野 由惟
応用化学コース	末廣 結衣	石井こゆき
物理学コース	原野 駿土	仲尾 駿
機械エネルギー工学コース	稲富 舜	原田 健伸
メカニカルデザインコース	黒田 心	中馬 健斗
電気エネルギー工学コース	木原 智哉	宮原 慧真
電子デバイス工学コース	石橋 優哉	西野 温
都市基盤工学コース	福島 美晴	植松 笑未
建築環境デザインコース	古賀駿太郎	荒木悠太郎



## 2023年度（第7回）菱実会・理工学部広報賞

2023年度菱実会・理工学部広報賞（第7回）の対象学生は55名で、菱実会より記念品（クオカード）が贈呈されました。記事名等は次の通りです（敬称略）。

記事日付	記事	学生氏名	部門（指導教員）
2023/4/10	自動車技術会の大学院研究奨励賞を受賞	Tuhin Atiqur Rahman	機械（宮良先生）
2023/4/12	IEEE福岡支部より発表奨励賞を受賞	川崎 龍青	電電（豊田先生）
2023/6/6	教育支援センター「くすの実」で理科実験教室を実施	古賀 あみ・他1名	化学（長田先生）
2023/6/26	国際誌Analytical SciencesのHot Article2023賞を受賞	Shaimah Rinda Sari	化学（富永先生）
2023/7/4	教育支援センター「くすの実」で理科実験教室を実施(2)	石川 聖真・他2名	化学（長田先生）
2023/7/13	教育支援センター「くすの実」で理科実験教室を実施(3)	津曲 遼・他1名	化学（長田先生）
2023/7/18	公益財団法人加藤科学振興会の令和5年度研究奨励金に採択	チトラ デビ ラクマニア	化学（富永先生）
2023/9/20	KJF-ICOME2023でPoster Awardを受賞	神代 健人	化学（坂口先生）
2023/9/28	インドネシア・ハサヌディン大学に短期留学	三瀬 公博	都市（三島先生）
2023/10/2	化学部門教員と大学院生らが教育支援センター「くすの実」で理科実験教室を実施(4)	林 昂輝・他2名	化学（長田先生）
2023/10/2	理工学部の学生国際交流組織「STEPs」がオーストラリアでの海外研修を実施	末廣 誠也・他12名	全部門
2023/10/11	第12回有機分子・バイオエレクトロニクス未来を拓く若手研究者討論会のベストプレゼンテーションアワードを受賞	神代 健人	化学（坂口先生）
2023/10/30	インドネシア・マラン国立大学の教員・学生が理工学部を訪問、学生国際交流組織「STEPs」と交流会を開催	末廣 誠也・他4名	機械（カーン先生）
2023/10/30	教育支援センター「くすの実」で理科実験教室を実施(5)	林 昂輝・他2名	化学（長田先生）
2023/11/2	2023年電気化学秋季大会で優秀学生講演賞を受賞	坂口 温音	化学（富永先生）
2023/11/10	第69回ポラログラフイーおよび電気分析化学討論会で学生優秀発表賞を受賞	坂口 温音	化学（富永先生）
2023/11/16	日本イオン交換学会・日本溶媒抽出学会連合会2023にて優秀口頭発表賞を受賞	日種 隆敬	化学（川喜田先生）
2023/11/28	化学部門教員と大学院生らが教育支援センター「くすの実」で理科実験教室を実施(6)	林 昂輝・他2名	化学（長田先生）
2023/12/12	12th International Conference on Separation Science and Technologyにて優秀口頭発表賞を受賞	日種 隆敬	化学（川喜田先生）
2023/12/19	優秀口頭発表賞、理工学専攻化学コースの学生が優秀ポスター賞を受賞	石橋 優・他2名	化学（坂口先生）
2023/12/28	計測自動制御学会九州支部第21回学生発表交流会で最優秀発表賞を受賞	小野 脩太郎	電電（後藤先生）
2023/12/28	第5回フロンティア太陽電池セミナーで優秀ポスター賞を受賞	Muhamad Mustofa	電電（田中先生）
2023/12/28	4th International Conference on Mechanoluminescence and Novel Structural Health Diagnosisで優秀ポスター賞を受賞	小方 優美	物理（鄭先生）
2024/1/16	第46回佐賀県パワーリフティング大会において理工学専攻機能材料化学コースの大学院生が優勝	原田 悠介	化学（森貞先生）
2024/1/16	ゴールドジムJAPAN CUP 2023において理工学専攻機能材料化学コースの大学院生が6位入賞	原田 悠介	化学（森貞先生）
2024/1/16	鹿島市肥前七浦駅を活かす「エンガワエキ」を提案、研究成果を発表	森 敦宏・他1名	都市（三島先生）
2024/2/21	計測自動制御学会九州支部学術講演会で奨励賞を受賞	岩上 颯太	電電（後藤先生）

## 2023（令和5）年度佐賀大学の学部卒業生と研究科修了生について

2024（令和6）年3月22日（金）、佐賀市文化会館大ホールに於いて、佐賀大学学位記授与式が開催されました。卒業生の今後の活躍を願っております。学部卒業生数及び研究科修了生数の詳細は次の通りです。

理工学部 卒業	
数理科学科	1名
物理科学科	0名
知能情報システム学科	4名
機能物質化学科	4名
機械システム工学科	2名
電気電子工学科	4名
都市工学科	0名
理工学科	461名
<b>計</b>	<b>476名</b>

学部	
教育学部	115名
芸術地域デザイン学部	113名
経済学部	246名
医学部	156名
理工学部	476名
農学部	146名
<b>学部計</b>	<b>1,252名</b>

研究科	
学校教育学研究科（修士課程）	20名
地域デザイン研究科（修士課程）	16名
医学系研究科（修士課程）	1名
医学系研究科（博士課程）	10名
先進健康科学研究科	48名
理工学研究科（修士課程）	5名
理工学研究科（博士前期課程）	160名
理工学研究科（博士後期課程）	5名
工学系研究科（博士後期課程）	3名
農学研究科（修士課程）	31名
<b>研究科計</b>	<b>279名</b>

## 2024（令和6）年度佐賀大学入学式について

2024（令和6）年度の佐賀大学の入学式は、2024年4月2日（火）、SAGAアリーナに於いて開催されました。佐賀のスポーツ文化に新しい風を吹き込む、九州最大級の多目的アリーナです。収容人数が多く、新入生の他、保護者も入ることができたとのことでした。2024年度の入学者数は、学部1,396名、大学院328名で、入学者総数は1,724名でした。入学者数の詳細は次の通りです。

学部（編入学含む）	
教育学部	130名
芸術地域デザイン学部	119名
経済学部	282名
医学部	164名
理工学部	544名
農学部	157名
<b>学部計</b>	<b>1,396名</b>

研究科（修士課程・博士前期課程）	
学校教育学研究科	20名
地域デザイン研究科	14名
先進健康科学研究科	54名
理工学研究科博士前期課程	186名
農学研究科	37名
<b>研究科計</b>	<b>311名</b>

研究科（博士課程・博士後期課程）	
医学系研究科博士課程	8名
理工学研究科博士後期課程	9名
<b>研究科計</b>	<b>17名</b>



# 理工学部教員一覧（関係センター含む）

（2024年6月1日現在）

理工学部の教員は、「自然科学域・理工学系」に所属して教育研究活動を行い、教育組織（理工学部・理工学研究科及び先進健康科学研究科等に配置され、学生の教育を行っています。なお、2023年度より、数理部門と情報部門は数理・情報部門となっています。

学部長：佐藤 和也  
副学部長：田中 徹  
          矢田 光徳  
          小島 昌一  
学部長補佐：福田 修  
                  カーンMDイストラム

## ■ 数理・情報部門

教授  
半田 賢司 堀 良彰  
中村 健太郎 中村 伊南沙  
岡崎 泰久 奥村 浩  
只木 進一 花田 英輔  
福田 修 皆本 晃弥  
松前 進 石本 志高  
准教授  
日比野 雄嗣 木下 武彦  
岩崎 淳 掛下 哲郎  
木村 拓馬 中山 功一  
廣友 雅徳 山口 暢彦  
講師  
上田 俊  
加藤 孝盛 猿子 幸弘  
大月 美佳  
助教  
前田 明子 ヨー ウェンリアング

## ■ 化学部門

教授  
海野 雅司 大渡 啓介  
鯉川 雅之 高永 利幸  
○竹下 道範 富永 昌人  
花本 猛士 山田 泰教  
長田 聡史 矢田 光徳  
川喜田 英孝  
准教授  
梅木 辰也 江良 正直

坂口 幸一 成田 貴行  
藤澤 知績 森貞 真太郎  
助教  
磯野 健一 小山田 重蔵  
米田 宏 大竹 亜佐美

## ■ 物理学部門

教授  
青木 一 河野 宏明  
鄭 旭光 船久保 公一  
○真木 一 橋 基  
准教授  
石渡 洋一 岡山 泰  
高橋 一智 房安 貴弘  
山内

## ■ 機械工学部門

教授  
佐藤 和也 張 波  
寺本 顕武 萩原 世也  
服部 信祐 松尾 繁  
○宮良 明男 只野 裕一  
長谷川 裕之  
准教授  
泉 清高 大島 史洋  
カーンMDイストラム 仮屋 圭史  
塩見 憲正 住 隆博  
武富 紳也 橋本 時忠  
馬渡 俊文 森田 繁樹  
講師  
石田 賢治  
助教  
佐藤 善紀 椿 耕太郎  
林 喜章  
サンディアゴ・ガリシアエドガー

## ■ 電気電子工学部門

教授  
大石 敏之 大津 康徳  
嘉数 誠 後藤 聡  
田中 徹 村松 和弘  
○杉 剛直 伊藤 秀昭  
准教授  
猪原 哲 木本 晃  
佐々木 伸一 田中 高行  
堂園 浩 西山 英輔  
原 重臣 福本 尚生  
三沢 達也  
助教  
サハ・ニロイ チャンドラ  
王 端敏

## ■ 都市工学部門

教授  
伊藤 幸広 大串 浩一郎  
○日野 剛徳 帯屋 洋之  
押川 英夫 三島 伸雄  
山西 博幸 小島 昌一  
後藤 隆太郎  
准教授  
猪八重 拓郎 李 海峰  
中大窪 千晶  
ウォンタナスントーンナルモン  
宮原 真美子 萬玉 直子  
講師  
根上 武仁 三島 悠一郎  
助教  
湖上 貴由樹  
デルバル モハメド ラミー

## ■ 海洋エネルギー研究所

教授  
池上 康之 吉田 茂雄  
徳留 嘉寛 木上 洋一  
光武 雄一  
准教授  
有馬 博史 出村 幹英  
村上 天元 松田 吉隆  
今井 安貴  
助教  
シリニバサムルティー シャラ  
鶴 若菜 森崎 敬史

## ■ 総合分析実験センター

准教授  
兒玉 宏樹 永野 幸生  
北嶋 修司  
助教  
龍田 勝輔 松久 葉一

## ■ 総合情報基盤センター

准教授  
大谷 誠  
助教  
江藤 博文

## ■ シンクロトン光応用研究センター

准教授  
東 純平  
助教  
今村 真幸 齊藤 勝彦  
デン コウホウ 山本 勇

○…各部門長

## トピックス2

# 産学交流プラザ ～大学と地域の連携拠点～

佐賀大学は、2021年に佐賀大学美術館横のサークル会館を改修し、産学交流プラザを開設しました。産学交流プラザには、産学連携の中核を担うリージョナル・イノベーションセンターや学術研究部、広報室などが設置されています。現在、地域や企業との産学連携の窓口を担うとともに、研究成果の情報発信としての役割も担っています。また、学生ベンチャー用の部屋が11部屋、コワーキングスペース等も完備されており、大学認定ベンチャー7社が、ここを拠点に事業に取り組んでいます。大学認定ベンチャー全7社のうち5社の代表は理工学部出身で、理工学部の同窓生が活躍しています。



## 理工学部出身のベンチャー企業

会社名	事業内容	代表 (入学年)
株式会社山城機巧	福祉関連機器等の設計、開発、試作、販売などの業務 機構設計に関わる委託開発及び開発請負業務	山城 佑太 (機械・H28)
株式会社 AS (アズ)	インターネットを使った情報サービスの開発 モバイルオーダーシステム「AS Order」の運用・開発	浅川 泰輝 (情報・H30)
株式会社 NEXS (ネクシス)	WEBシステム及びサーバの開発・管理保守、デスクトップアプリケーションの開発、 モバイルアプリケーションの開発、位置情報やオンラインマップを利用した情報サービス、 オンラインシステムの設定・運用代行	梶原 新 (情報・H26)
株式会社 SA-GA (エスエージーイー)	キャッシュレス決済 (スマホ決済) 等による学校のキャッシュレス化、ブロックチェーン、 ディープラーニング	森山 裕鷹 (情報・H27)
合同会社 sunapp (スナップ)	スポーツコアリングサービスの開発、学校現場向けサービスの開発、その他情報サービスの開発	高津 汰耀 (情報・R2)

※sunappは、7月1日時点でベンチャー認定申請中

(文責：高津 汰耀)

# 理工学部（理工学研究科）の特徴ある研究の事例紹介（第5回）

## 数理・情報部門（旧数理科学科・旧知能情報システム学科）

### ■ 階数2のp進ガロア表現の岩澤理論の研究

2024年3月17日から20日に大阪公立大学において開催された日本数学会2024年度年会において、日本数学会代数学賞という名誉ある賞を頂きました。そのようなこともありタイミング的に私が、という部門内からの推薦を頂きましたので、私のこれまでで行なってきた研究の内容について、特に、受賞理由にもなっている「階数2のp進ガロア表現の岩澤理論の研究」について説明します。

岩澤理論とは、1950年代に岩澤健吉氏により創始された整数論分野における理論です。有理数係数の高次連立方程式（代数多様体）の有理数解を求めることは整数論における基本的な問題ですが、基本的であるが故に具体的に調べることは非常に難しく、現在も多く未解決問題が存在します。例えば、代数多様体からはゼータ関数と呼ばれる関数が定義され、この関数の値（ゼータ関数の特殊値）に有理数解の情報が現れてくると予想されています。特に、楕円曲線と呼ばれる代数多様体の有理数解とゼータ関数の特殊値に関するバーチ・スウィンナー・トン＝ダイヤー予想（BSD予想）は有名で、この予想は2000年にクレイ数学研究所から提出された7つの未解決問題（ミレニアム問題）のうちの一つにもなっています。

岩澤理論は、代数多様体の有理数解とゼータ関数の特殊値の関係について、現状において最も精密な情報を得ることができる理論です。岩澤理論では岩澤主予想と呼ばれる基本的な予想があるのですが、現在までに知られているBSD予想に関する結果のほとんど全てはこの岩澤主予想を通じて得られています。中でも、加藤和也氏が90年代後半に行った楕円曲線の岩澤主予想に関する研究はこの分野における金字塔です。加藤氏は、それぞれの楕円曲線に対して、ゼータ関数の代数的な対応物であるゼータ元と呼ばれる対象を構成し、このゼータ元を用いてゼータ関数と有理数解を結びつけることで楕円曲線に関する岩澤主予想（の半分）を通常的という性質を満たす楕円曲線に対して証明しました。

私の研究は加藤氏の結果の一般化に関するものです。ゼータ元は、個々の楕円曲線に対して構成されていたものですが、私はこのゼータ元を楕円曲線の連続変形族に対して拡張しました。このように拡張したことで、異なる楕円曲線同士のゼータ元が結び付くようになり、その応用として、一般の楕円曲線に対する岩澤主予想を通常的な楕円曲線の場合に帰着することで証明することができるようになりました。

（文責：中村 健太郎）

Conjecture 1.3 Assume  $p$  is odd and  $\bar{\rho}_f : G_{\mathbb{Q}} \rightarrow \mathrm{GL}_2(\mathbb{F})$  is absolutely irreducible. Then the equality

$$\begin{aligned} \mathrm{Char}_{\Lambda_{\mathbb{O}}}(H_{1, N_f p}^1(\mathbb{Z}[1/N_f p], \rho_f^*(1)) / \Lambda_{\mathbb{O}} \cdot \mathrm{Im}(\alpha(f))) \\ = \mathrm{Char}_{\Lambda_{\mathbb{O}}}(H_{1, N_f p}^2(\mathbb{Z}[1/p], \rho_f^*(1))) \end{aligned}$$

holds.

## 化学部門（旧機能物質化学科）

### ■ 身近な新材料—鉛筆と化学と新材料

私たちの研究室で行っている現在の研究を簡単に表現すると、「鉛筆を化学の力で極めて小さなサイズに分解して、新たな材料として再構築する」研究です。初めから鉛筆を意識して研究を始めたのではないですが、後から考えると誰もが知っている身近な物の再構築と考えることができるようになりました。

図に示すように、鉛筆の芯の主成分である黒鉛（グラファイト）は、炭素が蜂の巣のような六角形で2次元的につながったグラフェンと呼ばれる物質が積み重なっています。このグラフェンは、原子1層分（0.000000335mm=0.335nm[ナノメートル]）の厚さと1mmを超えるような縦横方向の長さを併せ持ち、コンピュータの演算性能を10倍以上向上させることや、丈夫で伸縮性を持った材料であり、銅の10倍以上も熱を伝えることができるなどの性質を示すため様々な応用が期待されています。私たちはこの新材料について、以下の研究を行っています。

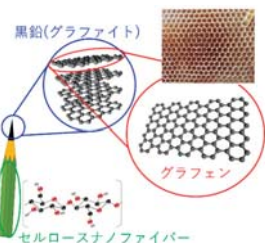
- ・（原料）プラズマやマイクロ波と化学薬品を組み合わせることで黒鉛の性質を変化させ、水などへの分散性を付与し、印刷技術が適用可能なインク化の検討（将来的にグラフェンを化学的に剥離）
- ・（評価）黒鉛・グラフェンの分散液の安定性を評価する方法・装置の開発
- ・（応用）得られた材料を応用展開するための素子化や実動作の確認

製造・評価・応用を同時に考えることで、それぞれの研究にフィードバックします。

一方で、私たちが鉛筆を持つ部分である外側の軸は植物である木でできており、その細胞壁はセルロースと呼ばれる炭水化物（多糖類）を主成分としています。木材を「解繊」することで、nmサイズのセルロースナノファイバー（CNF）と呼ばれる非常に細いファイバーを得ることができます。CNFはバイオマス素材であり、非常に丈夫な素材として期待されています。私たちは同様にこの新材料について、

- ・フィルム状の薄膜やスポンジ状多孔質膜を簡便に作り分ける方法の開発
  - ・多孔質膜の親水性や疎水性の変化や制御、黒鉛系材料との複合化の検討
  - ・多孔質膜へのモデル色素（将来的には汚染物質）の吸着挙動の解明
- などの研究を行っています。

最近では、CNFを利用することで水と馴染まない黒鉛を、化学処理なしで分散化できることに大学院生が気付いたことから、より簡便に炭素電極を作り、再生可能エネルギーを生み出すデバイス作製への貢献ができるのではと考えて、研究室のメンバーである助教さんと学生さんと議論（話し合い）しながら研究に取り組んでいます。



（文責：坂口 幸一）



## 物理学部門（旧物理科学科）

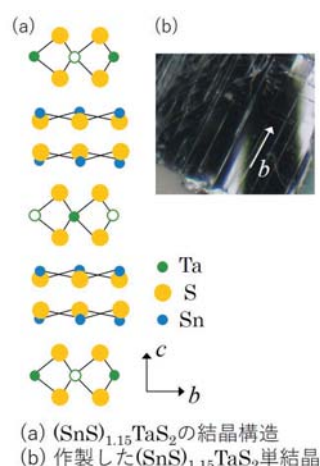
### ■ ミスフィット層状構造を活用した2次元超伝導の研究

超伝導は、物質がもつ性質の中で最も魅力的なものの1つでしょう。物質の中の自由電子が結晶格子の振動を介して「対」を作り、一斉に低いエネルギーに落ち込む（凝縮する）ことで超伝導は生じます。超伝導状態では、電気抵抗が消失し、磁場は量子化されるなど、基礎的にも応用的にも興味深い現象が見られます。超伝導は1911年に水銀で発見されました。水銀が超伝導になる温度は低く、約4.2 K（ケルビン）でしたが、その後の1986年に銅酸化物でずっと高温の超伝導が発見され、産業界に一大ブームが起こります。それから40年近く経った現在も、超伝導研究はさらに多彩な進展を続けています。

近年、大きく理解が進んだ内容の1つが2次元超伝導です。この場合の2次元とは、電子の対を特徴づける長さより「薄い」物質のことです。超伝導体を薄くすると、ある厚さを境に超伝導体は絶縁体になります。ただ、その原因の本質は結晶性の低下でした。今世紀、結晶性の良い「原子層」で超伝導が実現できたことで、研究は飛躍的に進みました。

物理学部門の凝縮系グループでは、一風変わった視点から原子層超伝導を調べています。2H-TaS<sub>2</sub>という物質は0.8 Kで超伝導になりますが、原子層では転移温度が約3 Kに上昇します。また、SnSという別物質がTaS<sub>2</sub>と一層ずつ交互に積層した物質が存在し、やはり約3 Kで超伝導を示します。SnSとTaS<sub>2</sub>の結晶周期は互いに不整合（ミスフィット）です。そのため両者はほぼ独立した電子構造をもち、その結果、3次元物質中で原子層超伝導が生じていると考えられます。そこで、学生諸氏と共に単結晶を自作し、光電効果に基づく角度分解光電子分光の測定から電子構造を、反磁性磁化の測定から超伝導特性を研究しています。

一般に、原子層の物理現象は面白くても実用が困難ですが、3次元物質であれば応用にも期待がもてます。現在、知見を深めると同時に、様々なミスフィット物質の作製にも挑戦しています。



（文責：真木 一）

## 機械工学部門（旧機械システム工学科）

### ■ 金属材料のメゾスケールモデリングとシミュレーション

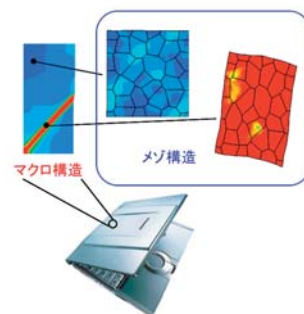
私たちの研究室では、金属材料のメゾスケール構造に着目し、材料の機械特性を明らかにするための理論構築とコンピュータシミュレーション技術の開発を研究テーマとしています。メゾスケールとは中間スケールといった意味ですが、金属材料においては、マイクロメートル程度の現象が支配的な結晶粒のスケールを指すことが一般的です。種々の金属材料の機械特性は、このメゾスケールにおける物理現象によって決定されることも多く、メゾスケールの材料挙動の理解と体系化は、種々のものづくりの根幹を支える重要な課題となっています。

例えば、当研究室ではマグネシウム合金を研究対象のひとつとしています。マグネシウム合金は、鉄鋼やアルミニウム合金と比較して非常に軽量であり、航空産業や自動車産業での活用が期待されている材料ですが、従来材料と比較して加工性が悪く、強度もそれほど高くないことが、利用範囲を限定的なものとしています。これは、マグネシウムのメゾスケール構造が鉄鋼やアルミニウム合金とは大きく異なることに起因します。そこで当研究室では、マグネシウム合金のメゾスケール構造に着目した材料モデルを新たに構築し、コンピュータシミュレーションと実験の比較を通じて、従来モデルでは十分に表現できなかった力学挙動を高精度に再現することに成功しています。

また、従来と比較して極めて高い強度を有するマグネシウム合金に着目した研究も進めています。この合金は、長周期積層（Long Period Stacking Order: LPSO）構造という特異な微視構造を有することが明らかになっていますが、その強度発現のメカニズムには不明な点も多いのが実情です。LPSO型マグネシウム合金は日本国内で開発された材料であることから、国内での研究が精力的に進められています。我々の研究室も「ミルフィーユ構造の材料科学」（<https://www.mfs-materials.jp/>）という研究プロジェクトに参画し、LPSO合金の強化機構をメゾスケールの力学から明らかにしつつあります。

これらの技術は、今日のものづくりに欠かせないコンピュータシミュレーション技術を大きく発展させる可能性を秘めており、今後も精力的な研究を進めていきたいと考えています。

（文責：只野 裕一）

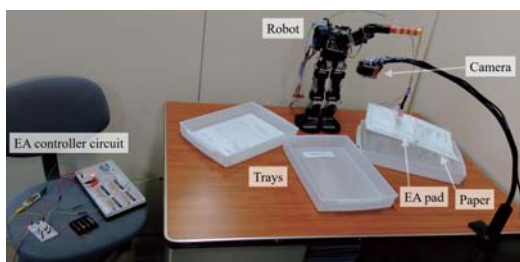


## 電気電子工学部門（旧電気電子工学科）

### ■ 汎用人工知能とロボット応用

近年、人工知能（AI）の技術が急速に進展しており、囲碁・将棋などをはじめとして、AIが人間の能力を超える分野が増えています。そして、ある特定の分野だけではなく、広い範囲で人間の能力を超えるAIである汎用人工知能（Artificial General Intelligence; AGI）の実現が視野に入ってきました。我々の研究室では、AGI実現へ向けた一つのアプローチとして、認知アーキテクチャを用いた研究を行っています。認知アーキテクチャとは、人間の脳の様々な「考えるプロセス」をモデル化するもので、数十年以上前から多くの研究がなされてきています。我々は、それらの研究を基にしつつ、部分観測マルコフ決定過程などの理論を用いてアーキテクチャを定式化し直し、それによって現代的なAI技術を適用可能にすることでAGIを実現しようとしています。

また、AIの応用としてロボット開発にも取り組んでおり、特にphysical RPA（物理的なRPA）の研究をしています。RPAとは、Robotic Process Automationの略で、オフィスの業務プロセスを自動化することを意味します。RPAは既に多くのオフィスで導入されていますが、既存のRPAシステムのほとんどは、コンピュータ上で実行されるプロセスを自動化するだけであるため、自動化できる範囲に限界があります。そこで当研究室では、物理的なプロセスも含めて自動化することができるよう、実際のロボットを組み込んだRPAシステムを開発しています。例えば、静電気のはたらきによって紙を吸着することのできるグリッパーを開発しています（写真）。物理的なオフィス業務の多くで紙の文書を扱う必要がありますが、紙は薄くて変形しやすいため、ロボットが紙を扱うのは容易ではありません。静電吸着を使用すると、ロボットは容易にかつ静かに紙を扱うことができます。（文責：伊藤 秀昭）



## 都市工学部門（旧都市工学科）

### ■ さがの水とミカンに向き合う都市

北部九州の経済発展に伴う水需要の増加に対応するために、筑後川水系における水資源開発基本計画の一環もかねて、1980（昭和55）年に筑後大堰は建設されました。塩害防除および洪水対策の役割とともに、筑後大堰貯水池からの取水は福岡県と佐賀県の水道用水、筑後川下流域の農業用水として供給されてきています。近年、筑後大堰貯水池において春季の藻類増加が報告されており、水道用水への影響を始め、大堰の下流域である筑後川感潮域の生態系および有明海の漁業への影響が懸念されています。安定した水供給かつ筑後川下流域および有明海の健全な水環境のために、筑後大堰貯水池および筑後川感潮域に出現する藻類種の特徴や傾向が分析され、水質変化に及ぼす影響の解明が進められています。本研究をきっかけとして、佐賀大学理工学部と水資源機構筑後川局との間の包括連携協定の締結を始め、2024（令和6）年度筑後川水系における委託研究の契約に繋がっています。

佐賀県の農業、特にハウスミカン栽培におけるエネルギーコストとCO<sub>2</sub>排出の削減を目的に研究が進められています。多くの農家が重油を燃料とする加温機を使用していますので、石油価格の変動や異常気象の影響が重なり生産コストが増加してきています。農業用ビニールハウスに再生可能エネルギーを利用した空調システムを導入し、省エネルギーで環境に優しいシステムの構築が目指されています。佐賀県果樹試験場と唐津市浜玉町を対象に、地中熱利用空調設備を導入したビニールハウスにおける温室内熱環境ならびに地中熱ヒートポンプとファンコイルユニット（FCU）の運転状況に関するモニタリングが行われました。次年度は地中熱ヒートポンプ+FCUの追加設置に向けた準備が整えられています。本研究の成果は、CIREn（再生可能エネルギー等イノベーション共創プラットフォーム）の未利用熱利用空調システム研究分科会における研究の一環です。（文責：日野 剛徳）

## 2023年度理工学部キャリアデザインセミナー

2023年度の理工学部キャリアデザインセミナーは6つの部門（旧学科）で実施していただきました。開催された教室での対面式セミナーには菱実会役員も視察参加させていただきました。講師を務めていただきました同窓生の皆様、またセミナーの手配や世話をさせていただきました先生方にこの場を借りて御礼申しあげます。

部 門	実施日	講 師	担当教員
数理・情報 (数理)	2024年1月11日(木) 理工学部大学院棟201	白谷 峻 氏 (数理工学科・2013年編入学) 富国生命保険相互会社	半田 賢司 先生
数理・情報 (情報)	2023年12月13日(水) 理工学部大学院棟301	岩橋 遼平 (知能情報システム学科・2006年入学) 株式会社QTnet	松前 進 先生
化 学	2024年1月31日(水) 理工学部大学院棟301	高木 伸太郎 氏 (機能物質化学科・2013年入学) 本荘ケミカル株式会社	矢田 光徳 先生
		瀬戸口 修三 氏 (機能物質化学科・2011年入学) 株式会社 SUMCO	
物 理 学	2023年11月13日(月) 理工学部大学院棟101	古角 沙耶 氏 (物理科学科・2018年入学) 三菱電機ソフトウェア株式会社	船久保 公一 先生
		田中 雄真 氏 (物理科学科・2009年入学) 富士通株式会社	
機械工学	2023年11月29日(水) 理工学部大学院棟301	中野 紗代子 氏 (機械システム工学科・2009年入学) 朝日インテック株式会社 (フィルメック株式会社出向)	只野 裕一 先生
		吉岐尾 湧介 氏 (機械システム工学科・2017年編入学) ヒノデホールディングス株式会社	
電気電子工学	2023年12月6日(水) 理工学部大学院棟401	馬場 崇之 氏 (電気電子工学科・2010年入学) 株式会社名村造船所	杉 剛直 先生
		齊藤 優介 氏 (電気電子工学科・2010年入学) 九州指月株式会社	
都市工学	2024年2月19日(月) 理工学部6号館 都市大講義室	八起 こなん 氏 (都市工学科・2015年入学) 株式会社建設技術研究所	押川 英夫 先生
		田中 菜月 氏 (都市工学科・2015年入学) 佐賀県東部土木事務所	

### 数理・情報部門（情報）のキャリアデザインセミナーに参加して

菱実会（佐賀大学理工学部同窓会）の活動の一環として、2023年12月13日（水）に開催された理工学部数理・情報部門（情報）のキャリアデザインセミナーに参加しました。講師は、株式会社QTnetの岩橋遼平氏（2006年知能情報システム学科入学）でした。氏は、学生時代、全日本テニス選手権大会に出場されるなど、テニスに明け暮れる日々で、なんとなく就職活動をされ、もし就職がうまくいかなかったら大学院へ行こうと考えられていたそうです。

就職後1、2年は出張や飲み会三昧で惰性で過ごしておられたそうですが、あることがきっかけで勉強しなくなり、さまざまな資格取得をされたとのこと。それも、社内では重宝される技術者となり仕事をされていたが、このままでいいのだろうか？と漠然とした不安にかられたそうです。そんな中、社内公募で社内新規事業のプロジェクト「YOKAプロ」に参画し、事業立ち上げ、ベンチャー出資や社内勉強会などを行われたとのことでした。また、その傍ら、事業構想大学院大学で2年間学ばれたとのことでした。

そういった経験を話していただき、最後に、キャリアデザインとは「自分のありたい人生に向け、行動や態度を考え続けること」ということをお伝えいただきました。84ページものスライドをご用意いただき、非常に熱い講話内容でした。学生たちも熱心に聞いており、自身の今後の学生生活や就職活動などの参考になる内容ではなかったかと思えます。今後も菱実会では理工学部キャリアデザインセミナーを通して、学生の支援を行っていきたいと思います。

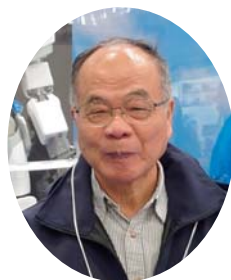
（文責：山中 輝樹）



## ロボットはやめた／人間の腕 を作れ

平田機工(株)＊2020年5月退社

藤本 勝 (電工・S47入)



「ロボットはやめた」入社試験面接で故平田会長(当時専務)から言われた。大学2年の時のオイルショックで、大手企業は新卒採用を中止した。そこで地元でロボットをやっている会社があると知り応募した。当時の平田機工は従業員400人程で、家電組立用コンベアが主力事業で、コンベア間の移載でエア式のロボットを作っていたが、移載方式が変わりロボットはやめていた。入社して4年程して平田会長から単純作業から人を開放したいので「人間の腕を作れ」と言われ研究所に異動になった。ロボットをやりたい入社動機を会長は覚えておられた。ロボットはメカ、ハード、ソフトの開発があり、私はハード担当になった。ちょうどマイコンが登場して間もない頃で、ロボット開発は大手でなくても始められるチャンスがあった。2カ月ほどでハードの試作機を完成させたが、メカ、ソフトの担当メンバーは他の仕事で手付かずの状態だった。会長から「じゃ藤本、メカをやれ」と言われドラフターに向かった。大学で選択履修した材料力学、機械要素は大変役にたった。3カ月ほどで試作のロボットが完成し、ハードチェックのために作っていたソフトで動かした。その後、商品化を行い1981年秋の第一回国際産業用ロボット展で「アームベースロボット」としてデビューした。一番苦労したのは、アームの振動で、大学時代に学んだ自動制御の本を読み漁った。この時学び直した知識は一生物になっている。特にスカラロボットの生みの親山梨大学の牧野教授のカム理論の本が役に立った。加速度の微分ジャークを滑らかにするヒントから、独自の速度カーブを採用して動かすと、振動がびたっと止まった。この時の感動は今でも覚えている。その後、アームベースロボットは大手家電メーカーで大量に採用されたが、国内の組立工場が労賃が安い海外に移設され、組立ロボットの需要は減った。そこで、当時大口径化していた半導体ウエハの搬送ロボットに参入した。クリーンという参入障壁は高かったが、仲間達の努力で、大手装置メーカーからの受注にこぎ着けた。その後ウエハ容器の開閉装置を新たに開発し、現在平田機工の事業の柱の一本になっている。平田会長の人間を単純作業から解放したい人間尊重の思い、すべての社員の可能性を活かし、常に新しい技術へチャレンジする精神が今でも残っている。平田会長や会社の仲間達との出会いが私の人生を大きく変えた。現在同窓会熊本支部の役員をしているが、理工学部以外の同窓生との交流で新たな出会いが生まれている。熊本在住の卒業生の皆さん熊本支部総会で待っています。

## ポンプで佐賀の安全・安心を

とりしま  
(株)西島製作所佐賀支店

田崎 茂樹 (土木・S53入)



大学卒業後、佐賀県庁に36年間勤め、定年後、ポンプメーカーである(株)西島製作所佐賀支店に勤務し5年目となります。

県庁在職中はダムやトンネル、橋梁など地図に残るような大型プロジェクトにも携わらせていただきました。

現在、勤務している西島製作所では主に県や市が管理する排水機場のメンテナンス(点検、整備、更新)に関わる業務を行っています。

佐賀県は低平地が広がり干満差の大きな有明海の影響を受けやすいため、「降れば大水」と言われるようにこれまで幾度となく水害に見舞われてきました。

近年では令和元年、3年の佐賀豪雨により甚大な内水被害が発生したことは記憶に新しいところです。

高度経済成長時の昭和40年代後半からこれまでに、県内には国や県、市町が管理する排水機場が約200箇所設置されています。このうち県が管理する河川の排水機場は52箇所です。全国の都道府県で最多となっています。

創業者が佐賀県出身である西島製作所のポンプは県内の排水機場の半数以上に設置されています。

佐賀で生まれ、学生、社会人としてそのほとんどを佐賀で過ごしてきました。ふるさと佐賀への思いとともに、これまでに得た知識や経験、人脈を活かし、ポンプを通して浸水被害の防止や軽減に貢献したいとの思いで仕事に取り組んでいます。

また、3年程前から毎年、10月～12月の毎週金曜日に開催される佐賀大学理工学部の産学官連携事業「建設プロジェクト演習」にOBとして参加し、学生の皆さんへインフラ整備に関するプレゼン資料作成のお手伝いをさせてもらっています。

毎年、学生の皆さんとの新しい出会いがあり、時代の変化や学生の皆さんの成長を肌で感じながら楽しく参加しています。

一方、プライベートでは体と頭の健康に気を付け、車を使わず電車と徒歩で通勤し、1日4千歩以上歩くこと、ビル5階の会社まではエレベータでなく階段を使うこと、週末はテニスで汗を流すこと、毎日30分以上は語学の勉強をすることを心がけています。

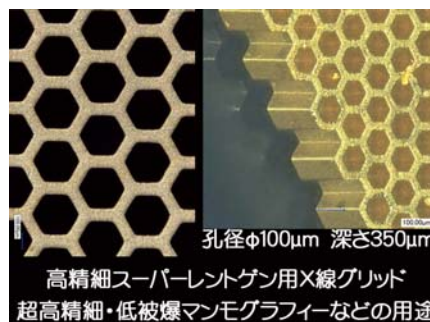
今後も健康に留意しながら人との出会いを大切に、ポンプを通してふるさと佐賀の安全・安心の向上に少しでも貢献できればと思います。

## 学んだ技術を未来に 活かし夢を実現する

田口電機工業株式会社 代表取締役  
田口 英信 (工化・S51入)



昭和55年に理工学部工業化学科を卒業後、田口電機工業株式会社に入社以来、めっき加工技術・表面処理技術を支え、会社の経営も支えつつ頑張る中で、昭和59年2月に工場火災により全てを焼失し、1年休業の後に昭和60年3月にプレハブでの再スタートをして、若干27才で社長に就任し現在に至ります。様々な苦労が続きましたが乗り越えながら工場を全面的に再建し、現在の形に再興するまで約40年を経過しました。弊社の業務は、半導体や自動車など製造業全般にわたるめっき加工の業務にて、約50種以上のめっき品種を揃えた「めっきのデパート」として産業を支えています。平成20年頃からシンクロトロン光X線を利用するLIGA微細加工技術のナノテクノロジー研究開発に着手し、電気めっきとリソグラフィの融合による超微細な直径0.1ミリ以下の精密歯車などの試作品開発に成功しました。現在がん検診画像診断装置の被曝量を低減させる新型X線グリッドや、食品工場のビニル、プラスチックなどの食品異物検出X線デバイス開発など様々な分野で世界初とも言える新技術の開発を行っています。主力産業は半導体製造装置や車載用パワー半導体基板、自動車関連部品のめっき加工などですが、弱電、医療、電力、通信、食品、建築、航空宇宙産業など全産業にわたりめっき技術は重要な産業であり、更に高めていきます。今後の発展の為、鳥栖プレミアムアウトレット前の九州シンクロトロン光研究センターの西側県有地に2年かがりで新工場を建設することを決定しました。未来社会を支える企業として新たなスタートを切りますが、佐賀大学で学んだ化学技術を応用する仕事に就き、更にその技術を先端産業に成長させることを生涯続けられる喜びを感じつつ、弊社持ち前のめっき技術とX線微細加工技術を更に成長させて、未来社会を支えるグローバル企業として大きく貢献できる企業にするという、自身の夢の実現に向かって邁進していきます。



## STEPsで踏み出す 海外への一歩

理工学研究科 電気電子工学コース  
山下 彰太 (電気・R2入)



初めまして！第13期STEPsリーダーの山下です。  
皆さんは理工学部公認サークルの「STEPs」という組織を聞いたことがあるでしょうか？初めて聞く方も多いかと思いますが、この度、STEPsを紹介できる機会をいただいたので、本記事を通してこんな組織が佐賀大学にあるんだと思っていただければ幸いです。

STEPsの最大の特徴は、年に一度、特定の国を訪問し、約1週間の海外研修を行うことです。研修プログラムの内容や宿泊の手配、旅費などは大学からの強力なサポートを受けており、英語力やコミュニケーション能力の向上、そして異文化理解を目的としています。

2023年度はオーストラリアを訪問しました。そこで、島国特有の自然環境や動植物に触れ、現地のネイティブの人々との交流を楽しみました。また、有意義な研修を目指して、毎週英会話の練習を行っています。特定のテーマについて雑談しながら英語で話し合ったり、留学生を招いて彼らの出身地について質問したりしています。

活動は基本的に全て英語で行うので、ハードル高いんじゃないの？と感じるかもしれませんが、そんなことはありません。わからない単語があればお互いに教え合い、和気あいあいとした雰囲気の中で活動しています。英語が苦手でも、楽しく会話する中で自然と上達していける環境が整っています。

ここまで読んで、STEPsは「海外に興味はあるけれど英語力に自信がない」という人にぴったりの組織だと思っていただけただしょうか？もし興味湧いてきた方がいらっしゃったら嬉しいです。

ただし、STEPsに所属するには一つだけ条件があります。それは、学部の3年生または4年生の時に理工学部長賞を受賞することです。この条件は厳しいかもしれませんが、それでもSTEPsに入りたい！という熱意のある方は、挑戦お待ちしております。

もちろん、STEPsに関して質問があればいつでもお答えしますし、公式ホームページ (<https://www5.hp-ez.com/hp/susteps/home>) もありますので、ぜひご覧ください。これから先、STEPsで皆さんとお会いできることを楽しみにしています！

## 菱実会と共に10年

元工業高校教諭  
島 公二武 (機械・S46入)

「島君、同窓会の手伝いをしてくれない？」と穂屋下先生から電話を戴いて今年で10年目を迎えました。彼は、私が大学院2年の時に九大大学院から佐賀大学に助手として戻ってこられた先輩です。その頃一枚のハガキが届きました。神埼地区会設立の案内で、理工学部担当になり、神埼地区設立総会は8月に開催されました。菱実会役員会からも支部強化委員を依頼され、県内11地区会の理工学部世話人を電話で依頼し続けて何とか格好はつきました。

2年後には支部強化部長になり、地区会の会長会を開催し地区会の充実を期しました。この頃佐賀大学同窓会は金丸会長で、巻頭言と不知火寮歌「南に遠く」の熱血の舞の練習会が開かれ、佐賀青春寮歌祭で披露しました。寮歌祭は学生時代を彷彿させる熱気にあふれるものでした。翌年には早稲田大学元応援団長江口県議の指導を仰ぎ、佐賀大学学生歌「楠の葉の」を応援団風に振り付けて歌う練習を行いました。これもまた寮歌祭で披露しました。沖縄を含む九州6つの支部会や東京支部会にも参加させていただき、「南に遠く」や「楠の葉の」で支部会を盛り上げました。卒業祝賀会には学部長が7会場を廻って祝辞を述べられましたので、菱実会でも会長が挨拶をし、私が学生歌「楠の葉の」に振り付けをして歌い、エールを贈りました。

川副会長の時には佐賀大学同窓会の理事長を引き受けました。その頃、事務局員の交代が頻繁にあり、同窓会名簿管理を外部委託することになりました。常駐する事務局長とは違い、たまにしか出向かない理事長には同窓会の運営状況が把握できず十分に力を発揮できませんでした。大学改革も進み中、宮崎学長から兒玉学長に引き継がれました。兒玉学長は初めての佐賀大学出身の学長で、期待して見守っております。機械卒で同郷の古川宏紀君も県会議員に立候補し、神埼地区会でも応援をして当選を果たしました。頑張っています、菱実会は。そしてコロナ禍が始まり殆どの活動が3年間程中断されましたが、少しずつ元に戻りつつあります。微力ではありますが、これからも佐賀大学と菱実会のために尽くしたいと思います。



## 学生理事として

理工学研究科 知能情報工学コース  
高津 汰耀 (都市・R2入)



2023年度より菱実会の理事(会報担当)を務めている高津汰耀です。私は、4年前に佐賀大学に入学し、学生生活を送ってきました。入学当初は、コロナが蔓延し始めたばかりで、思い通りの大学生生活とはなりませんでしたが、その中でも大学での学びだけでなく、課外活動にも積極的に参加することを心がけていました。

大学3年時には、バドミントンサークルの部長として活動し、福岡県では少年社会体育チームを運営しています。また、2022年8月にスタートアップし、学生社長として合同会社sunapp(スナップ)で事業に取り組んでいます。sunappでは、大学で学んだ技術や知識を活用し、「あったらいいなをITで」実現するというコンセプトのもと、スポーツや学校向けのアプリ開発を行い、幅広い層に向けた自社サービスを提供しています。大学生活を送りながら、起業という大きな挑戦に取り組んでいます。その経験を通じて様々なことを学んでいます。

菱実会との関わりは、2022年度の菱実会賞の授賞式から始まりました。その後、研究室の先輩でもある森山さん(情報管理担当理事)を通じてご連絡をいただき、理事としての活動に参加させていただくことになりました。このような貴重な機会に恵まれ、嬉しく思うとともに、菱実会の一員としての責任を感じています。

学生の立場から、菱実会の運営に関わることは大変意義深いものです。私は、自らの経験や知識を活かし、学生が菱実会に積極的に参加しやすい環境を整えられるよう、また会報を通して菱実会の活動に貢献できるよう、努めてまいります。

山口 武夫

(化学・S42入)

ロンドンの春の風物詩にケンブリッジ大学とオクスフォード大学のエイトのボート競技があります。最初の大会は1829年に開催され、今日まで続いています。一方、佐賀大学漕艇部は1967年に創立され、約30年間活動を続けてきましたが、現在は廃部となっています。これまでの活動状況を簡単に紹介します。ボートの乗艇練習は主に筑後川の昇開橋から諸富橋の上流付近で行われました。これまでに232名の人が入部し、1991年には女性部員によるクルーも誕生しました。創立当初は部員数が少なく、ナックルフォアの1クルーを編成するのがやっとでした。しかし、1970年代の前半には部員数も増え、多いときは50名に達する時期もあり、全日本大学新人戦のシェルフォアの部で優勝するまでになりました。1975年には待望のエイトが進水し、筑後の川面に優雅な姿を披露しました。1980年代は30名前後の部員が部活を維持・発展させてきました。ところが、1993年以降、新入部員が急激に減少し、1998年までは部の活動を維持してきましたが、その後は活動が停止してしまいました。

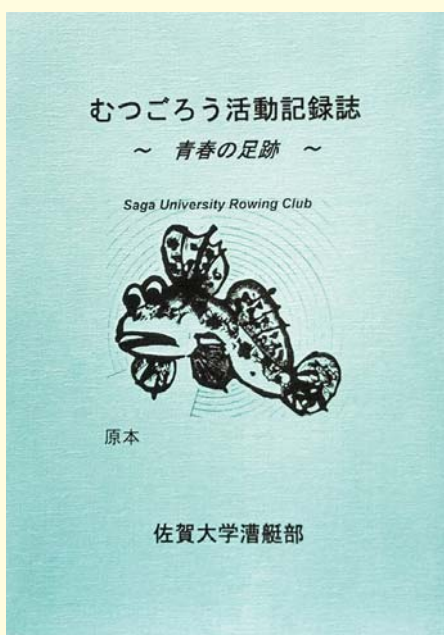
新型コロナが流行する前の2019年の暮れ、佐賀で佐賀、福岡在住のOBで忘年会を開催しました。その席上、佐賀大学漕艇部のレガシーについて初めて話し合いました。その後、何回か話し合い、部の活動期間中に発行してきた機関誌“むつごろう”の16冊を一冊の本にまとめ、「むつごろう活動記録誌～青春の足跡～」として原本（A4判で465ページ、機関誌をスキャナーで取り込んだもの）と編集版（A4判で333ページ、機関誌をタイピングし、編集したもの）の2つの形で出版することにしました。“むつごろう”に執筆した人は173名になります。本には部員の部活、大学生活、人生への熱き想いや苦悩などが取められています。今回、この本の編集を通して、ボートというスポーツの魅力や佐大ボート部の雰囲気の良さを再認識しました。それと同時に、現在、ボート部が廃部となっていることが残念でなりません。“継続は力なり”と申しますが、もしボート部が現在も活動を継続していたならば、素晴らしい伝統と人間関係が構築されてきたことと思われます。青春を謳歌してきた佐賀大学漕艇部が存在したことを後世に伝えるため、また漕艇部の活動の再開を願って、この記録誌を2024年3月に、佐賀、福岡在住でこの本の出版に主に関係した安永勝美氏（1970年入学）、櫻井文夫氏（1971年入学）、義満宏文氏（1972年入学）と一緒に佐賀大学を訪れ、佐賀大学附属図書館、学生生活センター、佐賀大学同窓会に寄贈させていただきました。

大学を卒業して、月日が経ちますと、連絡の取れない方が多数おられます。この同窓会の会報を介して、この本の存在を知り、本の入手を希望される方がおられましたら私の方まで連絡をお願いします。

連絡先：山口 武夫

E-mail：takeo@fukuoka-u.ac.jp

電話：092-803-1475



## 第12回理工学部と菱実会との意見交換会を開催

2023（令和5）年11月15日（水）、菱の実会館多目的室において、理工学部と菱実会との意見交換会を開催しました。出席者は、大学側から理工学部長、副学部長（3名）、部門長（4名）及び事務長の計9名で、同窓会側からは菱実会会長、副会長（3名）及び理事（5名）の計9名でした。

島公二武副会長の司会で開会し、はじめに主催者を代表して穂屋下茂菱実会会長が挨拶を行いました。9月2日に開催した菱実会総会の学生の活動報告が大好評であったこと、来年菱実会が楠葉同窓会から分離独立してから25周年を迎えるので記念事業の準備をしていること、さらに菱実会は然るべき理由で佐賀大学同窓会から離脱する可能性があることなどを説明しました。



意見交換会の様子

続いて、10月1日付けで就任された佐藤和也理工学部長のご挨拶がありました。佐賀大学に赴任して27年目になること、同窓会の色々な支援に対し感謝を述べられた後、国立大学を取り巻く状況は厳しいこと、データサイエンスの人材が不足していることで新しいコースができ、学部定員が30名増えて学生が480名から510名に、大学院生は167名から187名になること、一方ここ数年で教員の退職者が30名と多いことや学生の人口が減っていくことなど課題も多く、どんな体制にしていくのか重責を背負っていることなどを話されました。

出席者の自己紹介では、はじめに同窓会側出席者の卒業学科や担当業務などの自己紹介を行いました。引き続き、大学側出席者には各部門等の現状等の報告を兼ねて自己紹介をお願いしました。

意見交換では、菱実会発足25周年記念誌の執筆依頼、理工学部へ記念品の贈呈、菱実会賞募集と表彰式の変更、理工学部同窓会長賞の選考基準の変更等について説明やご相談を行いました。大学側から、佐賀大学同窓会から菱実会の離脱について、同窓会運営はマンパワーがあるので長期的に考えたときに運営体制がどうなるか危惧されるなどのコメントがありました。菱実会役員会がここ数年、大幅な改善を段階的に必死に働きかけた末の結論であることなどを丁寧に説明し、理解していただきました。

現在社会問題の一つとなっている女子の社会進出の問題も話題になりました。意見は出尽くしておりませんが、予定の2時間を少しオーバーしましたので、意見交換会を閉会しました。（文責：山口 智啓）

意見交換では、菱実会発足25周年記念誌の執筆依頼、理工学部へ記念品の贈呈、菱実会賞募集と表彰式の変更、理工学部同窓会長賞の選考基準の変更等について説明やご相談を行いました。大学側から、佐賀大学同窓会から菱実会の離脱について、同窓会運営はマンパワーがあるので長期的に考えたときに運営体制がどうなるか危惧されるなどのコメントがありました。菱実会役員会がここ数年、大幅な改善を段階的に必死に働きかけた末の結論であることなどを丁寧に説明し、理解していただきました。

現在社会問題の一つとなっている女子の社会進出の問題も話題になりました。意見は出尽くしておりませんが、予定の2時間を少しオーバーしましたので、意見交換会を閉会しました。（文責：山口 智啓）

## 2023年菱実会総会・クラス代表会議・記念講演・懇親会の報告

2023（令和5）年度の菱実会定例総会（総会・クラス代表会議・記念講演・懇親会）が、9月2日（土）、理工学部第6号館で、4年ぶりに対面で開催されました。参加者は約90名でした。

14：00より総会が始まり、会長挨拶後、中島啓一郎氏を議長に選出しました。役員報告、2022年度の事業報告と決算報告があり承認されました。学部4年の高津汰耀氏が初めて役員になりました。次に、2023年度事業案と予算案の説明があり承認されました。その他として、「佐賀大学同窓会への改善要求が認められなかった場合の対応について」の提案があり、役員に一任することが決まりました。



14：50より菱実会クラス代表会議が開催され、7名の在学生（学部生4名、大学院生3名）より、大学における活動や研究等の発表がありました。各発表の持ち時間は約10分であったにもかかわらず、各発表者は各活動を分かりやすくまとめられており、参加者の評判は上々でした。

引き続き理工学部教授の嘉数誠先生の記念講演がありました。世界で初めてのダイヤモンドのパワー半導体を使った電子回路についての講演でした。ダイヤモンド半導体は、性能や耐久性に優れ、「究極の半導体」と呼ばれています。佐賀大学が作成したダイヤモンド半導体は、オンとオフの切り替えが高速ででき、世界最高の出力電力を記録しています。また、エネルギー損失が低く効率がよく、長時間連続動作でも劣化がありません。今後の実用化が楽しみです。

記念集合写真撮影のあと、懇親会がかさざぎホールで新型コロナに配慮しながら開催されました。実行委員長挨拶、会長挨拶に続き、来賓として児玉学長と豊田理工学部長の挨拶がありました。渡副学長の乾杯音頭で、立食パーティ形式で懇談が始まりました。今年は、学生や民間企業からの参加者が多く、年齢や職場の枠を超えて、交流を深めることができました。また、恒例のビンゴゲームも大いに盛り上がりました。活気ある定例総会でした。（文責：山口 智啓）



## 支部会・地区会の報告

### 神埼地区会

2023（R5）年9月9日（土）17：00から、割烹「菊水」に於いて神埼地区総会が開催されました。参加者は、神埼地区会員26名及び本部役員6名でした。地区会員の内訳は、有朋会9名、楠葉同窓会4名、農学部同窓会10名、菱実会（理工学部同窓会）2名、医学部同窓会1名でした。年齢は年配から中堅層が多く、若い人は少ないようでした。

総会では、古賀季夫会長の挨拶のあと、本部役員の見介、水田和彦佐賀大学同窓会会長の挨拶、及び事業報告がありました。2015（H27）年4月に地域内の卒業生897名に対してアンケート調査した結果、同窓会案内状送付希望の回答者は87名（有朋会43名、楠葉同窓会7名、農学部同窓会19名、理工学部同窓会16名、医学部同窓会2名）との報告がありました。参加者を増やす対策が必要になってきているとのことでした。

また、本部役員から、10月8日（日）に佐賀駅前交流広場で開催予定の同窓会フェスの案内チラシが配布され、参加のお誘いがありました。同窓会フェスは、学生と卒業生、そして地域の人々との交流を目的とした同窓会の新事業で、芸術地域デザイン学部同窓会、楠葉同窓会、農学部同窓会主催で体験ブース、飲食ブース、購買ブースなどが設営されるとのことでした。

さらに、参加者全員が自己紹介や学生時代の思い出、近況などの報告がありました。参加者全員で写真撮影を行ったあと、交流会に移りました。交流会では、あらためて来賓全員の挨拶があり、前田安久氏の乾杯音頭で賑やかな宴に移り、最後に学生歌斉唱と非常に盛り上がった地区会でした。

（文責：田中 稲穂）



集合写真

### 佐大会懇親会

佐大会懇親会は年1回開催することになっておりますが、新型コロナ禍のため、第34回佐大会懇親会は、2023（R5）年9月23日（土）、「グランデはがくれ」において4年ぶりに開催されました。参加者は皆で35名で、会員参加者は退職者と現役がおおよそ半々で、31名（教育4名、経済2名、理工15名、農学3名、不明7名）でした。佐賀大学同窓会本部から4名が来賓として参加しました。

開会宣言後、物故者黙祷があり、深川直人（教育）佐大会会長の挨拶後、水田和彦佐賀大学同窓会会長の挨拶、穂屋下茂菱実会会長の挨拶と続き、さらに新規入会者5名の紹介と挨拶がありました。懇親会では、会食をとりながら近況や在学中の思い出などを語り、お互いの情報交換で賑わいました。和やかな雰囲気の中、時は瞬く間に過ぎ、最後に万歳三唱で閉会しました。



集合写真

\* 佐大会会則によると、本会は佐賀県立学校の校長・教頭・事務長である者、またその退職者の集まりで、その目的は会員同士の親睦を図ることと謳っております。今回第34回開催とのことですが、第1回佐大会懇親会は初代会長の古賀信夫氏（教育卒、元教育次長）の下で、1987（S62）年に開催されたとのこと。歴史的な重みを感じました。

（文責：穂屋下 茂）

## 熊本支部会

2023 (R 5) 年10月7日(土) 17:00より、KKRホテル熊本にて熊本支部総会が開催されました。会場は、熊本城に隣接するホテルで、往く途中復興した熊本城が観られました。

総会参加者は、支部会員48名及び来賓(本部役員5名と学長)の合計54名でした。支部参加者の内訳は、文理学部卒2名、農学部卒21名、経済学部卒9名、理工学部卒9名、教育学部卒4名、医学部卒3名でした。農学部卒の参加者が一番多かったようですが、満遍なくどの学部からも参加者がいました。ただ、年齢も年配から中堅層が多く、若い人が少ないようでした。

総会は、会友報告、総会、記念写真撮影、懇親会の順で遂行されました。会友報告では、農学部S58年卒三原順一氏から「地球にやさしい農業を目指して!」という演題で、無農薬農業の取り組みについての講演がありました。

総会では、高口義幸支部長(経済・S53卒)の挨拶の後、来賓の紹介、来賓の挨拶、事業報告、会計報告、役員改選など事務局の提案どおりに決定されました。懇親会では、テーブルごとに参加者全員の自己紹介もあり、学生時代の思い出、近況などの報告がありました。最後に学生歌を斉唱し、会は大盛況のうちに閉会となりました。

熊本支部総会はとても活発な支部会で、そのうまくいっている要因の一つは、役員(会長=支部長、副会長、事務局)の選出は2年ごとに5学部で輪番制にして10年先まで決まっていることだと確信しました。また、農学部同窓生の嶋田薫(農学・H2卒)氏から農園で栽培した胡蝶蘭10数鉢の差し入れがあり、総会の間は会場に飾り、最後にお土産としてプレゼントされました。運よく胡蝶蘭をいただいた人は非常に喜んでいました。

(文責: 山口 智啓)



胡蝶蘭を前にして

## 筑後支部会

佐賀大学同窓会筑後支部懇親会が、2023 (R 5) 年11月11日18:00よりランヴィエール勝島(福岡県柳川市南長柄町)の大ホールにて開催されました。

参加者は文理学部卒1名、教育学部卒2名、経済学部卒8名、理工学部卒6名、農学部卒4名、来賓(本部役員6名、学長)の合計28名でした。しばらくぶりの懇親会開催であり、初参加者や佐賀市内からの参加者がおられ、今後の盛大な懇親会が期待できる支部会と感じられました。会の前に写真館出張の集合写真撮影がありました(会の終わりに1枚ずつ集合写真が配布されました)。

はじめに大津数也(経済S49)支部長の挨拶があり、筑後支部の成立ちなどの紹介がありました。筑後支部は、北は久留米地域、南は大牟田地域と範囲が広く、はじめは大牟田の方で支部会が行われていましたが、今は地図上で中心とも言える柳川で支部会が開催されているとのことでした。

支部長の挨拶に続いて来賓紹介があり、来賓を代表して兒玉浩明学長の挨拶がありました。佐賀大学の簡単な現状説明の他、学長自身が佐賀大学出身者であることなどを含めた興味深い自己紹介もありました。

そして高崎登美雄氏の乾杯音頭で懇親会が始まりました。懇親会の途中では「アタマ柔らかクイズ」などの余興も用意されており、終盤においては佐賀大学不知火寮寮歌「南に遠く」を合唱し、熱のこもった懇親会となりました。最後に、母校と筑後支部の発展を祈り、万歳三唱で会を閉じました。

(文責: 小玉 純士)



集合写真

## 東海支部会（不知火会）

2023（R5）年11月25日（土）13:00より、第25回東海支部（不知火会）総会が開催されました。会場はいつもの名古屋駅近くの会場が取れず、洋風の人気のレストラン（paffパフ名古屋支店）での開催となりました。参加者は、文理学部卒3名、経済学部卒1名、理工学部卒4名、農学部卒3名、来賓（本部役員5名、学長）の合計17名でした。新型コロナ禍の影響により久しぶりの総会で、参加者は11名と少ないようでした。

秋吉英治支部長（経済学部S48年卒業）の開会挨拶で始まりました。支部長の挨拶の中で、218通の案内状を出したが、11通が所在不明で、返信が72通あったが、その中の通信欄には今後案内不要が63%もあり、支部の存続が危ぶまれているとの報告がありました。続いて、来賓の紹介・挨拶と続きました。兒玉浩明学長が最近の佐賀大学の状況を簡単に説明された後、同窓会本部からの来賓者全員が順次挨拶を行いました。

矢野亨氏（文理学部S38年卒）の乾杯音頭で和やかな会食・懇談が始まりました。しばらくして参加者全員が順次自己紹介を行い、学生時代の思い出や近況報告などの話題に耳を傾けました。最後に、全員で写真撮影をして閉会となりました。

（文責：山口 智啓）



出席者全員で写真撮影

## 大分県支部会（豊後はがくれの会）

2024（R6）年1月27日（土）17:00より、アートホテル大分13Fスカイホールにて大分県支部総会（豊後はがくれの会）が開催されました。会場は、大分駅の中央口から出て、中央商店街を徒歩約15分の所です。新型コロナ感染拡大防止のため、令和2、3、4年度の総会は休止で、4年ぶりの開催とのことでした。総会参加者は、支部会員参加者18名及び来賓5名（本部役員）の合計23名でした。支部会員参加者の内訳は、文理学部卒1名、経済学部卒4名、理工学部卒4名、農学部卒9名で、半数が農学部卒でした。年配から中堅層が多く、平成卒が3人と若い人が少ないようでした。また、総会資料で欠席者14名のメッセージや逝去者2名の紹介がなされました。

総会は、神取禎久（農・S62卒：事務局）の司会で、記念写真撮影、議事、懇親会の順に進められました。始めに清末義信支部長（農・S59卒）の挨拶がありました。若い人の参加が少ないので、若手の参加を増やすことが今後の課題とのことでした。続いて来賓紹介、水田和彦佐賀大学同窓会長挨拶がありました。議事では、令和元年と令和2年の経過報告、佐賀県豪雨被害に対する支援、次年度の総会予定、次回役員改選など提案どおりに可決されました。

懇親会は谷本親史氏（文理・S37卒）の乾杯音頭で始まりました。しばらくして、来賓（本部役員）4名の各学部同窓会活動に関するいろいろな話題提供がありました。会の終盤には支部会員参加者全員の自己紹介や近況報告を兼ねたジャンケン大会で会場は大いに盛り上がりました。ジャンケン大会では、最も若い祖田嘉数氏（農・H10卒）が優勝しました。ちなみに優勝景品は大分県が開発したオリジナル品種「ベリーツ」とのことでした。最後に、優勝した祖田嘉数氏の本締めで会を閉じました。

（文責：山口 智啓）



ジャンケン大会のひとこま

# 菱実会の動き

2023  
4月

2024  
3月

(\*印は菱実会(理工学部同窓会) ○印は佐賀大学同窓会  
無印は、佐賀大学/理工学部)

- 2023. 4. 4 2023 (R5) 年度佐賀大学入学式
- 4 \*理工学部賞表彰式(受賞者24名)
- 13 ○第1回佐賀大学同窓会代表役員会
- 17 \*菱実会会報「菱の実 第25号」編集会議
- 20 ○春期定例役員会
- 24 \*菱実会監査
- 5. 18 \*第1回菱実会役員会
- 25 \*同窓会担当副学長と会談
- 6. 8 ○第1回佐賀大学同窓会会長会
- 8 ○第2回佐賀大学同窓会代表役員会
- 19 \*第1回情報管理部会
- 22 \*第1回組織強化部会
- 7. 1 \*菱実会会報「菱の実 第25号」発行
- 1 ○佐賀大学同窓会会報誌「楠の葉 第39号」発行
- 12 \*第2回菱実会役員会(第1回実行委員会)
- 20 \*理工学部長と会談
- 20 \*第3回菱実会役員会(第2回実行委員会)
- 31 第1回校友会代議員会
- 8. 24 \*第4回菱実会役員会(第3回実行委員会)
- 9. 2 \*菱実会総会・クラス代表会議・記念講演・懇親会
- 9 ○神埼地区総会
- 15 \*学長と同窓会担当副学長と会談
- 21 ○佐賀大学同窓会学生支援部会
- 22 ○佐賀大学同窓会への学部同窓会拠出金検討部会
- 23 ○佐大会懇親会
- 25 ○佐賀大学同窓会臨時会長会開催
- 10. 2 ○第1回佐賀大学同窓会庶務担当部会
- 4 \*第5回菱実会役員会
- 7 ○熊本県支部総会
- 12 ○第3回佐賀大学同窓会代表役員会

- 16 \*新理工学部長と会談
- 28 学園祭・佐賀大学ホームカミングデー
- 11. 2 \*第1回菱実会会長・副会長会議
- 11 ○筑後支部総会懇親会
- 13 \*理工学部キャリアデザインセミナー(物理学部門)
- 14 ○第4回佐賀大学同窓会代表役員会
- 15 \*第12回理工学部と菱実会との意見交換会
- 22 アグリ創生教育研究センター収穫感謝祭
- 25 ○東海支部総会
- 25 ○第31回佐賀県青春寮歌祭
- 27 ○第6回菱実会役員会
- 29 \*理工学部キャリアデザインセミナー(機械工学部門)
- 12. 6 \*理工学部キャリアデザインセミナー(電気電子工学部門)
- 13 \*理工学部キャリアデザインセミナー(数理・情報部門(情報))
- 14 ○佐賀大学同窓会秋期定例役員会
- 18 \*第2回菱実会会長・副会長会議(菱実会発足25周年記念事業)
- 21 \*同窓会担当副学長と会談
- 2024. 1. 1 ○佐賀大学同窓会会報「楠の葉 第40号」発行
- 11 \*理工学部キャリアデザインセミナー(数理・情報部門(数理))
- 22 ○第1回離脱に伴う佐賀大学同窓会と菱実会との話し合い
- 27 ○大分支部総会(豊後はがくれの会)
- 31 \*理工学部キャリアデザインセミナー(化学部門)
- 2. 5 \*情報管理部会
- 19 \*理工学部キャリアデザインセミナー(都市工学部門)
- 3. 4 ○第2回離脱に伴う佐賀大学同窓会と菱実会との話し合い
- 14 \*同窓会担当副学長と会談
- 14 \*菱実会会報「菱の実 第26号」編集会議
- 22 2023 (R5) 年度佐賀大学学位記授与式
- 22 ○佐賀大学同窓会長賞表彰状授与(受賞者6名)

## お知らせ

### ●菱実会発足25周年記念事業のご案内

菱実会(佐賀大学理工学部同窓会)は、1999年8月に楠葉同窓会から分離独立して発足しましたので、2024年8月に25周年を迎えます。それを祝して記念事業を行います。同窓会会員の皆様には、菱実会発足25周年記念式典・祝賀会への参加と記念誌への投稿をお願いします。

記念式典・祝賀会の開催期日は2024(令和6)年9月7日(土)で、佐嘉神社記念館で開催予定です。多数ご参加下さい。

菱実会発足25周年記念誌の発行予定日は当初2024年7月1日の予定でしたが、菱実会事務局の諸事情により2025年3月1日に延期しました。投稿締め切りも2024年9月30日に延期しました。ご承知おき下さい。

記念誌や記念誌執筆、記念式典・祝賀会参加等の申し込みは、菱実会Webサイトの住所変更等入力フォームから申し込むこともできますが、下記の菱実会HPの**お問い合わせ**からでも申し込みいただけます。

### ●佐賀大学同窓会からの離脱の報告

菱実会は、佐賀大学同窓会の運営において、会報送付や同窓会名簿管理の有り方、拠出金負担率等について、段階的に改善を申し入れてきました。しかし、大幅な改善の見込みはほぼ期待できない状態でしたので、2023年度菱実会定例総会において、菱実会は佐賀大学同窓会から離脱するか否かの決議を菱実会役員会へ一任して頂く提案を諮り、承認されました。

その後、10月開催の菱実会役員会において2023年度限りで佐賀大学同窓会から離脱することが決議され、同月開催の佐賀大学同窓会代表役員会で、前会長らも陪席して菱実会の離脱についての協議が行われました。再確認の要求に従って、菱実会会長・副会長会議及び菱実会役員会において慎重に再協議した結果、正式な離脱届を提出することになりました。11月開催の臨時代表役員会(菱実会副会長も同席)で離脱届を提出し、了承されました。最終的には12月14日開催の佐賀大学同窓会秋期定例役員会で、菱実会は2024年度より佐賀大学同窓会から離脱することが決定しました。

お問い合わせ先

菱実会事務局 は佐賀大学菱の実会館内にあります

TEL/FAX : 0952-23-7131

e-mail : ryoujitsukai@sudream.sakura.ne.jp



\*菱実会 HP (<https://www.sudream.org/ryoujitsukai/>) は佐賀大学同窓会 HP とは連動しておりません。

お問い合わせは、菱実会 HP の**お問い合わせ**をご利用下さい。